

同窓會報



〒610-1197 京都市西京区大枝杵掛町 13-6
京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会
発行人：同窓会会長 上村 淳之
TEL/FAX 075-334-2218
携帯 /090-7353-6999
http://www.kyogei-ob.jp
E-mail info@kyogei-ob.jp



2018年度 同窓会象の会 「役員会」と「懇親会」を開催

7月8日(日)16時から2018年度の同窓会象の会役員会を「からすま京都ホテル」3階山水の間で開催し、同じ場所で17時20分から懇親会を開催しました。出席の役員は58名(出席役員36名、委任状22名)で提案の7議案が審議され、賛成多数で全議案が可決承認されました。その内容について報告します。

司会は阿部副会長。黙祷の後、上村会長が都合で欠席のため、望月副会長が開会の挨拶。その後、議長(安井代表幹事)を選出し、議事録署名人(野崎と安井両代表幹事)を指名しました。

1号議案<2017年事業報告>

- ・ 新生に入学祝品贈呈「芸大130年の歩み京の美都の響き」 4月4日
- ・ 音楽学部同総会真声会総会に出席(望月副会長) 6月25日
- ・ 2017年度役員会の開催(京都ロイヤルホテル&スパ) 7月2日
- 大学移転に際し同窓会事務室設置に関する要望書を学長に提出
- ・ 「会報 象」65、66号発行と編集委員会の開催 8月、2月
- ・ 芸大祭に同窓会模擬店「象の店」出店 11月3日～5日
- ・ 同窓会賞賞状デザインを公募、新調(デザイン科：郡司穂子さん作品) 1月
- ・ 同窓会展開催(1990年代前半を中心に) 2月17日～3月4日
- ギャラリー@KCUAにて、17人17点出展
- ・ 真声会との連絡会議 3月6日
- ・ 新生に同窓会入会と入会金納付のお願い文書送付 3月
- ・ 卒業、修了生のお祝いに同窓生名簿を贈呈、終身会費納付依頼発送 3月
- ・ 芸大作品展に同窓会賞(12点)賞状、副賞授与 3月23日
- ・ 総務委員会開催(2回) 3月23日、他
- ・ 同窓会後援名義使用申請3件、同窓生の作品展HPに掲載71件

2号議案<2017年決算報告>

- ・ 一般会計決算＝収 入：11,997,125円
支 出： 6,760,989円
繰越金： 5,236,136円
- ・ 基金特別会計＝繰越金：19,180,000円
- ・ 名簿発行特別＝繰越金：△365,410円
- ・ 財産合計＝24,050,726円

3号議案<2018年度事業計画>

- ・ 新生に入学祝品贈呈「芸大130年の歩み京の美都の響き」 4月3日
- ・ 2018年度役員会、懇親会の開催(からすま京都ホテル) 7月8日
- ・ 総務委員会開催 随時
- ・ アートフェア2021、同窓生名簿2020の準備会立ち上げ 8月
- ・ 「会報 象」の発行(8月、2月)、編集委員会開催 8月、2月
- ・ 真声会との連絡会議 (年2回予定)
- ・ 芸大祭に同窓会模擬店「象の店」出店 11月3日～5日
- ・ 旧今熊野校舎跡地と大学移転先崇仁地域の視察ツアー開催 11月4日
- ・ 同窓会展開催<杵掛時代：移転直後の活動から学ぶ(仮)>
2月16日～3月3日 ギャラリー@KCUAにて
- ・ ホームページ運営委員会開催 随時
- ・ 卒業、修了生お祝いに同窓生名簿を贈呈、終身会費納付依頼送付 3月
- ・ 芸大作品展に同窓会賞(13点)賞状、副賞授与 3月
- ・ 大学支援の実施(大学からの申請に基づき)
- ・ 同窓会後援名義使用許可、同窓生の作品展HPに掲載

4号議案<事務局機能強化のため人件費を増額する件>

- ・ 同窓会事業拡大に伴う業務量の増大で事務職員1名体制維持が困難
- ・ 事務職員の後継者を育成する視点も課題
- ・ 必要に応じ臨時職員を雇用するため、事務費人件費を50万円増額

Head line

2018年度 同窓会象の会「役員会」と「懇親会」を開催	1
同窓会役員名簿(2018年度)	2
京都市立芸術大学美術学部同窓会展＝作品公募＝	3
五芸祭報告	3
2017年度 同窓会展 部屋と宇宙と眠らない夜	4
同窓生だより	6
2017年度「京都市立芸術大学作品展」同窓会賞受賞作品	8

Relay Talk「象の会・いろあわせ」	9
平成29年度後期芸術資料館収蔵品展	10
新任のあいさつ	10
旧今熊野校舎跡と移転先崇仁地域の視察ツアー参加者募集	11
今秋の芸大祭「象の店」(同窓会)開店ご案内	11
事務局だより	12
編集後記	12

5号議案<新入生に同窓会終身会費の納入をお願いしていく件>

- ・年会費から終身会費へと制度移行を進める中、安定的財源確保が必要
- ・そのため、新入生から終身会費を徴収できるシステム構築が急務
- ・大学移転までの早い時期に具体的な徴収策を検討し、実施に移せるよう努力

6号議案<2018年度予算>

- ・2018年度一般会計＝収入：8,986,200円 支出：7,762,000円
(200万円を基金特別会計に戻入)
- ・基金特別会計＝収入：21,460,010円 支出：1,000円
- ・同窓生名簿会計＝収入 △358,400円 支出：1,000円

7号議案<幹事役員の一部交代補充について>(役員名簿参照)

- ・同窓会会計実務幹事として新たに小畑 剛さんを会計幹事(学外)に
- ・アートフェア2021実施に向け、新たな幹事として辻喜代治さん、松尾 恵さん
- ・会則では、名誉副会長に美術学部長、研究科長は含まれないが、次の総会で会則改正を行なうことを前提に、今回暫定的に両職を名誉副会長に追加

・発言された主な意見と答弁

杉本幹事：同窓会活性化にホームページ(HP)は重要なツールだと思う。しかし予算を見るとランニングコストのみでコンテンツ充実のための経費が見込まれていないのでは？ HPは内容が大事なのでその辺の予算措置は考えられないか？

安井幹事：代わりに意見を述べておいて欲しいとの要望を受け、大学支援事業について意見を披露しておく。それは夏のグラウンド使用中に、熱中症の危険などが危惧されることから、ミスト機能付き大型扇風機があれば大変助かるので大学支援の枠で検討いただけないか？

野崎代表幹事：HP運営費15万円はHPの運営コストだけの金額です。コンテンツ充実のため経費は必要だと思いますので、HP運営委員会で一度検討し、内容や予算額を具体化していただき次年の役員会へ提案ください。HP委員会も東田幹事に就任いただいたところですので大いに期待しています。

大学支援事業で大型ミスト扇風機の要望については、私もお聞きしています。しかし、本事業運営要項などが制定されていない現状では、支援の妥当性判断に苦慮しています。そのため大学とも相談しながら早急に支援のルール化、その文書化を急ぎたいと思っています。

【懇親会】司会：阿部副会長

開会挨拶を望月副会長。来賓として淀野 実 副理事長(理事長代理)、赤松玉女 美術学部長、栗本夏樹 研究科長、藤本信和 事務局長をご紹介します。

淀野理事長代理よりご挨拶をいただき、藤本事務局長から大学移転の現状について説明。併せて、昨年に同窓会から同窓会事務室を設置する要望書を受け、9月発表の基本設計の中に組み入れられるよう努力をしている、と報告がありました。赤松美術学部長の挨拶と発言により乾杯。

その後、20時まで出席者大いに懇親を深め、望月副会長の閉会挨拶でお開きとしました。



同窓会役員名簿 (2018年度)

●印は新任

名誉会員	梅原 猛	中西 進	潮江 宏三	建昌 哲
顧問	中井 貞次			
名誉会長	鷺田 清一(理事長・学長)			
名誉副会長	淀野 実(副理事長)	藤本 信和(事務局長) ●	赤松 玉女(美術学部長) ●	栗本 夏樹(研究科長) ●
	学 内	学 外		
会 長		上村 淳之(1957(昭32)日)		
副会長		望月 重延(1967(昭42)塗)	阿部 緑(1983(昭58)染)	
代表幹事	安井 友幸(1991(平3)漆工)	野崎 邦雄(1969(昭44)洋)		
会 計	藤本 英子(1982(昭57)環境D)	小畑 剛(1970(昭45)洋) ●		
監 査	長谷川直人(1983(昭58)陶磁器)	水野 收(1979(昭54)日)		
幹 事	大野 俊明(1971(昭46)日本画)	三宅 五穂(1951(昭26)彫)	中井 貞次(1954(昭29)染)	榊原 吉郎(1957(昭32)洋)
	赤松 玉女(1982(昭57)油画)	矢田 精治(1958(昭33)洋)	芦田 裕昭(1959(昭34)日)	伊藤 義明(1959(昭34)図)
	吉岡 俊直(1995(平7)版画)	舞原 克典(1961(昭36)洋)	二階堂 忠(1962(昭37)洋)	川口 凱正(1963(昭38)日)
	金氏 徹平(2001(平13)彫刻)	佐野 賢(1966(昭41)彫)	古川加津夫(1970(昭45)D)	竹内 三雄(1972(昭47)彫)
	砥綿 正之(1982(昭57)構想設計)	中野 順二(1972(昭47)塗)	出井 豊二(1973(昭48)D)	辻 喜代治(1973(昭48)塗) ●
	滝口 洋子(1984(昭59)VD)	佐藤 敬二(1974(昭49)D)	杉本 清(1974(昭49)D)	小山 格平(1976(昭51)D)
	塚田 章(1979(昭54)PD)	岩間 香(1977(昭52)日)	酒井 雅子(1978(昭53)洋)	松尾 恵(1980(昭55)染) ●
	日下部雅生(1988(昭63)染織)	市川 博一(1982(昭57)陶)	東田 幸治(1983(昭58)油)	児玉 靖枝(1984(昭59)油)
	田島 達也(芸術学)	村岡 幸信(1985(昭60)日)	河原 有伽(1986(昭61)版)	茶谷 文子(1986(昭61)PD)
	横田 学(1980(昭55)教職)	谷本 天志(1989(平1)油)	安藤 吉準(1989(平1)構)	辻野 宗一(1990(平2)日)
		新田 恭子(1990(平2)染)	安井 健二(1992(平4)VD)	渡邊 野子(1993(平5)油)
		福岡 崇(1994(平6)PD)	吉岡 佐知(1995(平7)日)	新道 牧人(1997(平9)彫)
		福本 双紅(1997(平9)陶)	正垣 雅子(1998(平10)日)	新道 尚美(1998(平10)陶)
		川越 里美(1998(平10)陶)	北里美絵子(1998(平10)染)	黒川 彰宣(1999(平11)彫)
		人長 果月(1999(平11)構)	徳永 杏子(1999(平11)VD)	小川久美子(1999(平11)染)
		関林 宏祐(2001(平13)日)	谷口 晋也(2001(平13)陶)	吉岡 千尋(2004(平16)油)
		毛呂 祐子(2004(平16)芸)	井手本貴子(2005(平17)日)	谷澤紗和子(2005(平17)油)
		久門 剛史(2005(平17)彫)	佐野 暁(2005(平17)漆)	古川きくみ(2007(平19)環D)
		公庄 直樹(2007(平19)漆)	小西 愛子(2008(平20)環D)	中村 潤(2009(平21)彫)
		村田ちひろ(2009(平21)染)	萩原 佳奈(2010(平22)漆)	村井 都(2013(平25)版)
		濱野 志織(2014(平26)芸)		

京都市立芸術大学美術学部同窓会展 ＝作品公募＝ < 2018 年度 > 杓掛時代―移転直後の活動から学ぶ（仮）

2023年に予定されている本学キャンパスの全面移転に向けて、より良い移転のあり方を探るため、2015年度より前回の大学移転（1980年）前後の本学の活動を美術学部同窓会展のテーマとしてきました。

2015年度には、故・木村重信先生による特別講演を実施し、1970年代に施行された改革案について学ぶ機会を持ちました。2016年度には芸術資源研究センターとも連携し、当時東京藝大との学生交流展として行われていた「フジヤマゲイシャ」に焦点を当てて資料研究や勉強会などを実施しました。集められた資料を媒介として、若手作家が非常に意欲的に活動していた80年代の様子を知ることのできる貴重な機会ともなりました。

また2017年度より、芸術資料館に収蔵された松井紫朗氏の大学院美術研究科彫刻専攻修了作品《FLOWER VASE》（1985年度）の修復プロジェクトを行っています。同作品は石と木を素材とした、高さ3mを超える大作ですが、接続部などの経年劣化により

【関連イベント】

●ギャラリートーク 日時：2019年2月16日（土）14:00～15:30

2019年2月16日（土）～3月3日（日）＜月曜休館＞入場無料
11:00～19:00（最終入場は18:30まで）
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

展示不可能な状態となっていました。保管場所から彫刻棟にフォークリフトを使用して運び込み、詳細の確認を行った上で、仏師の矢野健一郎氏に修復方法についてアドバイスを受けました。この修復作業の狙いの一つには、素材の扱い方や当時の若手作家たちの制作上の理念など、80年代の美術を作品制作の立場から学ぶことにあります。現在は木を素材とする部分の修復はほぼ完了しており、仕上げ作業を行っているところです。

本年度、金沢21世紀美術館、静岡市美術館、高松市美術館（3館合同企画）や国立国際美術館で80年代をテーマとした展覧会が実施されますが、この流れに合わせて、いま一度80年代の同窓生の活動を中心とした展覧会を実施したいと考えております。前述の松井紫朗氏の作品についても、本展でのお披露目を目指して修復作業を進めて参ります。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。（ギャラリー@KCUA学芸員 藤田瑞穂）

●オープニングレセプション 日時：2019年2月16日（土）16:00～

<作品公募>

公募対象：①同窓会象の会の正会員としての義務（会費納入）を果たしている会員及び特別会員

②①の中で1980～90年代に在学され、その時代に制作された作品を準備できる会員

公募作品：杓掛時代に制作された作品でジャンルを問いません
サイズは展示可能な範囲（平面概ね100号まで、立体1m立方以内）

既発表作品でも可とします

当該作品が大学芸術資料館で所蔵されている場合は、その作品で応募・展示することができます

公募期間：2018年10月2日（火）～12月21日（金）まで

応募方法：応募を希望される会員は、電話、郵便、FAX、メー

ルなどで公募期間内に同窓会事務局まで連絡下さい。折り返し応募用紙を送りますので記入いただき返送ください（応募者が少なく展覧会の開催に支障をきたす場合は、主催者の判断で別途出品を依頼する場合があります）

出品料：無料（作品の搬出入に要する費用は出品者でご負担ください）

その他：展覧会のDMは主催者で用意し事前に出品者へお渡しします

搬出入など詳細は、出品が決まった時点で連絡します

問合せ：美術学部同窓会象の会事務局

担当／開本恭子（090-7353-6999）

五芸祭報告 新優勝旗、初年度は京都の手に！

2018年5月24日（木）～27日（日） 愛知県立芸術大学

平成30年5月24日から27日にかけて、第64回五芸祭愛知大会「共鳴-chain-」が愛知県立芸術大学で開催されました。様々な刺激を受けることで、それぞれが独自の視点などを見つけ出し、その発見を繋げていける五芸祭を目指すことをコンセプトに、企画・イベントや競技が行われました。期間中は晴天に恵まれるなか、各競技会場では熱戦が繰り広げられ、京都芸大は平成27年度以来の総合1位を獲得しました。また、今大会から新たに新調した優勝旗がお披露目されるとともに、総合1位に輝いた京都芸大にもたらされました。

来年度は4年ぶりの京都大会が開催されます。新しい委員長を中心にすでに主幹校として他の4大学を迎え入れるための準備をはじめており、素晴らしい大会を開催できるように委員一同これからも頑張っていきます。

五芸祭実行委員会 委員長
2回生 山際 萌未

新優勝旗（左）と旧優勝旗（右）



体育交歓会（バスケット部）男女とも優勝／豊田地域文化広場



体育交歓会（ラグビー部）7人制優勝／川田公園ラグビー場

その他優勝競技：バレーボール男子、テニス男女混合シングル

2017年度同窓会展<部屋と宇宙と眠らない夜－1990年代前半を中心に> 2018年2月17日(土)～3月4日(日) 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAにて

主催：京都市立芸術大学美術学部同総会象の会、京都市立芸術大学
助成：平成29年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」

撮影：大島拓也



山下華世子
「冬華」
(1991年度日本画専攻卒業作品)



岡村寛生
「ジャーマン・スープレックス・ホールド」
(1991年度油画専攻卒業作品)



竹ノ内郁
「増殖の法則1」
(1992年度大学院美術研究科工芸専攻陶磁器修了作品)



北原美保
「弦耀 (蒔絵螺鈿硯箱)」
(1991年度漆工専攻卒業作品)



渡部睦子
「星へ行くための家」
(1991年度陶磁器専攻卒業作品)



金田勝一
「ウルトラ チョイス」
(1992年度油画専攻卒業作品)



山田道夫
「Blue goes to his office everyday 3」
(1992年度大学院美術科絵画専攻版画修了作品)



福井敦子
「in surprise」
(1991年度版画専攻卒業作品)



舌 忠之
「微刺激の空間づくりー都市の家ー」
(1992 年度環境デザイン専攻卒業作品)



山元彩乃
「夜宇宙」
(1993 年度染織専攻卒業作品)



中村奈緒美
「DRESSING」
(1995 年度漆工専攻卒業作品)



川田有宏
「生活圏交通システム“MST”」
(1993 年度プロダクトデザイン専攻卒業作品)



藤田匠平
「ウマレタテノイシヲヒロッタ」
(1994 年度大学院美術研究科工芸専攻陶磁器修了作品)



豊永政史
「知覚・その写真」
(1995 年度大学院美術研究科デザイン専攻ビジュアルデザイン修了作品)



植田隆太
「Vermin (No.00)」
(1994 年度構想設計専攻卒業作品)



辻野陽子
「永劫回帰」
(1994 年度大学院美術研究科工芸専攻染織修了作品)



佐藤有紀
「ノータイトル」
(1995 年度大学院美術研究科絵画専攻油画修了作品)

京都芸大連

藤本 英子

(1981年度工芸科デザイン専攻卒業、現デザイン科教授)



○阿波踊りに参加する京芸生、その始まりから

今年もその季節が近づいてきた、いつまでたってもよそ事とは思えない阿波踊りのリズムと、暑い夏の夜の記憶が蘇る。

京都芸大と徳島阿波踊りの関係は、工芸科の学生たちの参加が始まりと聞く、有志による参加だったようだが、今回はその後、大学の同好会「芸大連」として組織化された活動から書き始めたいと思う。

通称「芸大連」は昭和43年、その正式な活動をスタートさせた。設立したのは当時大学院デザイン専攻科の木田安彦氏である。初代連長となり、約15名で組織し「京都市立美術大学阿波踊同好会」として、最初で最期(翌年より芸術大学になる)の参加であったが、赤の浴衣や、番傘踊が人気を博したという、大学職員の参加もあったようだ。踊は地元の、田淵冬湖氏に指導を仰いでいた。学生連は皆浴衣姿だったが、翌年には「美」の一文字を背に入れた学生連初の法被姿となり、地元の有志の応援、軽音クラブ金子政昭氏ほかの参加を得て、鳴り物(大太鼓、小太鼓、鐘、篠笛)が独自に組織できるようになる。木田氏とともに、徳島出身の坂東正氏を中心に活躍した。

その後、毎年学生を増やし、多くの女子学生も参加するようになる。ちょうど大学全体でも、女子学生が増加していった時代でもあった。設立10数年を迎えた昭和52年には、男女共そろいの法被を着て総勢60名の参加となった。法被の下は長いさらしを仲間で助け合いながら体に巻きつけ、白い踊パンツ、白い直足袋の衣装が定着していた。

○現地でも注目を集める学生連に

筆者が入学したのは昭和53年、まだ東山の校舎で1枚の法被のチラシが目にとまった。その法被は「び」という1字が大きく描かれたもので、デザイン科の大先輩、田中一光氏のデザインによるものだった。即座に参加を申し込んだ。本場阿波踊りに、田中一光氏を取材で追う関西テレビのスタッフが、ともに徳島入りをし、後輩たちと踊り楽しむ田中一光氏の特別番組の取材となった。この年は参加者の8割が女子となり、華やかでインパクトのある衣装と個性は、阿波踊りに参加する学生連でも群を抜く人気で、すでにOBとして、その中心的存在であった木田氏はじめ、多くのOB、OGも参加する、大きな連となっていた。

踊りこんだ後は宿泊先であるお寺にもどり、大宴会、そして雑魚寝。翌日は海でバーベキューに西瓜割り、時には海水浴や男女混合相撲。夕方にはまた衣装を身につけ、市内踊り場に繰り出していく。当時は、栈敷きのある正式な踊り場を踊り抜けるための順番を待つ間も、町中で他の連との交流や、円陣での踊りこみなど、昼夜を問わず活動する激しい合宿であった。当時現役だっ

た、西村正紀氏、田中佳代子氏などが中心となっていた。鳴り物もできるだけ多くのメンバーが学び交代するが、筆者も篠笛をマスターした。

夏の阿波踊り以外でも、春には岡崎公園や仁和寺での花見、もちろん踊で盛り上がる。芸大祭では怪しげな模擬店「阿波屋」を開店。「ボボ・ブラジル」と銘打って、トルコ風呂?兼珍味料理の飲み屋で、時折技を尽くした「花魁(おいらん)道中」までを行う店として、OBや先生方の人気の店となった。そして市内を練り歩いていた仮装行列にも参加した。

昭和54年には会員現役とOB43名による「チャンカチャンカ展」を辻喜代治氏の肝いりで、ギャラリー・マロニエで開催するなど、活動はピークに達した。しかし力強いOBを束ねることは、現役生には重荷となってきたこともあり、昭和55年同好会は解散することになる。OB有志37名による新たな組織「名物阿波踊京都芸大連」の誕生である。

○同好会の解散後「名物阿波踊京都芸大連」に

このあたりの記録は、昭和57年8月12日発行の「阿波のかよい帳—名物阿波踊京都芸大連15周年記念 阿呆らんまん」に詳しい。

昭和56年に連の会則と役職名を「名物阿波踊京都芸大連式目」として作成くださったのが、当時参加の横山俊夫先生(京都大学助教授)であるが、今や静岡文化芸術大学の学長として芸術系で活躍中である。この頃から毎月定例に京都府立植物園横の鴨川河原での練習も始めた。徳島阿波踊り名人の一人、四宮生重郎氏が指導に参加くださり、下村良之介氏がタバコ盆を持って支援に来て下さるなど、様々な交流も起こっていた。

連でのオリジナル法被は6枚に及んだ。その中でも木田安彦氏の手による「雷さんと稲妻」の柄を、メンバーであった新道弘之氏が藍染作品に仕上げてくださった、今も手放せない逸品である。そして、京都府の美山にある藁葺き屋根の民家への引越しを、メンバーで手伝ったことが懐かしい。その後、多くのアーティストが移り住む地区となっていったのである。こうして藍染など日本文化の伝統を守りつつも、片方の足袋だけピンクに染めるなど、新たな取り組みにも熱心だった。

卒業し東京の企業でデザイナーとして働いていた筆者は、江戸組の代表として、その名を連ねていたが、やがて2年の有給休暇をため、2週間に及ぶヨーロッパ遠征に参加することになる。



芸大連 昭和59年記念写真

○ヨーロッパ遠征2回を果たす「名物阿波踊京都芸大連」

徳島の阿波踊りへの参加だけではなく、この頃からリオのカーニバルへの関心がメンバーの中で高まっていた。東京芸大のサンバクラブとも、徳島の阿波踊りで共に踊ることはあったが、リオはあまりにも安全性の上で不安が大きく、いつしかヨーロッパのカーニバルへの参加へと、話が盛り上がっていった。その結果2度のヨーロッパ遠征に赴くことになる。

昭和60年2月、第1回目に訪問したイタリアベニスでは、仮面をつけたマスカレードカーニバルに、日本の「おたふく」などの仮面をつけ、サン・マルコ広場での踊り込みと、市のパーティでの出場が実現した。もちろん音のある私達の踊りは瞬間に広場の人気者となって、新聞やTVニュースに登場することになる。ノリのいいイタリア人たちがすぐに輪に入って踊ってくれた。

京都市と姉妹都市であるフィレンツェでは、ドゥオモの大パーティに参加、大理石の上で踊ったが、参加者の優雅なドレス姿が目くらんだ。そしてオランダでもマーストリヒトのカーニバルに参加した。



ヨーロッパ遠征

昭和62年、第2回目は総勢22名でスペインのバルセロナからスタートする。サグラダ・ファミリアに女神像を、先輩である、外尾悦郎氏がちょうど設置する日に遭遇、思いもかけない祝いの踊りとなった。その後ジブラルタル海峡を船で渡りながら船上でも踊り、モロッコに渡った。スペインに戻りカディスのカーニバルに参加。その後ドイツのケルンに移動した。ケルンでは伝統あるカーニバルの参加を実行委員会に、日本から申請はしてみたものの参加が許されず、最後尾の清掃車の後を追いかけるように踊り込み、多くの人々の関心を集めた。馬車馬の排泄物でドロドロになった道路の上を練り歩いた感覚は30年たった今でも忘れられない。

昭和63年20周年を迎えた時、仲間は現役学生9名を含む60名に達していた。

こうして、国際デビューも図るが、やがてメンバーの高齢化や仕事の忙しさで、練習の参加者も減少。「名物阿波踊京都芸大連」の解散となっていた。



ヨーロッパ遠征



El grupo japonés, actuando en la plaza del Mentidero.-BERNET

イタリア新聞記事

○「名物阿波踊京都芸大連」解散から「雷連」に、そして

解散してから、特に阿波踊りにこだわることなく、日本の祭りに関心が向く。新たに設立した「雷連」では、藍染で染めた江戸の踊り衣装をつけ、木田氏デザイン、新道氏制作の本藍法被を作成し、イベントへの踊り込みや、主に持ち回り例会での懇親会、何度かの徳島阿波踊り参加と、その形態を変えしばらく続いたが、昨年の木田氏の他界とともに、静かにその活動に幕を降ろした。

こうして京都芸大連の歴史は、木田氏の思いとともに展開してきた経緯がある。多くの趣味人を巻き込みながら、そのネットワークの中で人も育ってきたように思う。

筆者自身もこの活動の中で、大学の専攻では体験できない学びや人のつながりを得させていただいた、今もその残りが体に残る。昨年10年以上ぶりに、別の会で徳島鳴門の阿波踊りに参加した、体が覚えている踊りが、まわりからは年季の入ったベテランに見えたようだ。この文章から同窓生で芸大連に関わった皆さんが、しばしその思い出に浸っていただければ幸いである、それぞれの体に残った阿波連の残り香とともに。

「正調阿波踊芸大連音頭」

― 色気と食い気とこころいき
くたびれ知らずのハリキリ連！

― 年季入って渋さも増して
なにはなくとも芸大連！

ヤットナー ヤットヤット！
ヤットナー ヤットヤット！

2017 年度

「京都市立芸術大学作品展」同窓会賞受賞作品 (12 点)

会期＝2017年2月8日～12日 会場＝京都市立芸術大学、京都市立美術館（別館）、元崇仁小学校



Personarium

郡司 穂子

ビジュアル・デザイン 4回生



おミカンさま

高瀬 菜葉

油画 4回生



ボラリス

監物 紗羅

日本画 院2回生



慾深き海の泥となりて

金子 紗彩

構想設計 院2回生



ゆうゆう苑

矢野 梨花子

環境デザイン 4回生



子供ホスピタリティ

藤本 萌恵子

プロダクト・デザイン 4回生



Truck/Seeing the depth in front of the eyes

小西 景子

版画 院2回生



is there

本田 真帆

染織 4回生



ヴィア・アレルヤ 復活譚

内海 紗英子

漆工 院2回生



誰もいない、わたしの。好きの土台

阪井 裕久

陶磁器 院2回生



石に巡らす／Rolling stone

中川 亮二

彫刻 4回生

<論文>

江戸時代における指物

一松江藩お抱え職人・小林如泥の経歴と作品を中心に

倉澤 佑佳

総合芸術学 4回生

象の会・いろあわせ

同窓生が同窓生を紹介し、リレーしていく近況報告のコーナーで、懐かしい人と出会う楽しみ、いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です。

こだま まさみ
児玉 正美

1956年(昭31)彫刻科専攻卒業



作品の前で(右側が筆者)

アメリカのプレントイス・ホルの社長ジョン・ジー・パワー氏から、彫刻二人、絵画二人が6ヶ月間のアメリカ見学に招待され1964年にアメリカに行きました。

私はそのままニューヨークに残り、色々な人の知遇を得て、あっという間の46年でした。

今年で85歳になりますが、未だ現役の彫刻家として頑張っています。

アメリカに居た時は画廊のおやじから、「世界に一つしかない物を作れ」と言われ、それなら私の得意とするところで、石彫、木彫、ブロンズ、あらゆる材料を考えてみましたが、これは大変やっかいな問題です。世界に一つしかない物は誰も見た事なければ聞いた事もない彫刻、おばけに会うよりもっと大変な事です。

堀内先生は「おもしろい物」を作りなさいと言われていました。真面目におもしろい物は、と考えると何も浮かんで来はしませんが、不真面目に「おもしろい物」となると色々なアイデアが浮かんでくるものです。それを「自分のものに引き寄せる力を養う為に勉強しなさい。」と或る人から教えてもらいました。

仕事は毎日やっていますが、焼物の作品をやりたいと思いい小屋を建て、窯を築いて火とにらめっこしています。

アメリカから帰って来たのは仕事をするためで、これから先が楽しみです。



"Circle World #2"
Milford Pink and Black Granite
Diam. 54", D. 20", 1969
Base Diam. 54", Ht. 4'
Fordham University,
Lincoln Center Campus,
New York



次号に紹介される方は、

ふじわら まこと
藤原 信さん

1962年(昭和37年)彫刻卒業、
1964年(昭和39年)専攻科修了です。

もとやま
基山 みゆき

2011年(平23)

油画専攻卒業

2013年(平25)

絵画専攻(油画)修了



修了してしばらくは、なかなか生活のペースがつかめず、落ち着かずにいました。

京都で仕事をし、大阪の実家近くで制作場所を調達。現在はアパートのキッチン部分。白いお風呂では描きかけの絵を置いて見れます。

京都の他に東京の展示、小学校作品展、里山展覧会、宿への納品など…今日まで発表の機会があり、ご縁をいただけることに感謝の日々です。



「2017年11月 この世界にふれる時in里山きゃんぱす(奈良県)にて」

制作を支えているのは、生きものへの尽きない興味です。大きな生きものに会いたくて、シャチのいる遠方の水族館を巡り、思いがけず出会ったペルーガの肉感の迫力に惹かれ…そして一番面白かったのは淡水を泳ぐ象のようなマナティ。

水族館はだいたい海沿いにありました。過去にも海を見てきたはずだけど何か違う。底なしの魅力に気づき、いずれは海の近くに移住したくなりました。

また昨年参加した里山の展覧会を通して山や土や火…その実態に触れたのも興味深いことです。修了から5年。まだまだこんなに新しい発見があるんだと嬉しくなっています。描くものは尽きそうにありません。



次号に紹介される方は、

さかもと ゆい
阪本 結さん

2011年油画専攻卒業、
2018年絵画専攻(油画)修了です。

平成 30 年度後期 芸術資料館収蔵品展 (2018.9 ~ 2018.12)

開校135年を越える本学の教育史において、当館の収蔵品は蓄えられてきました。今年は、第1期では京都市動物園が所蔵する明治から昭和にかけての園内風景や動物の写真・映像とともに動物をモチーフとした卒業作品をあわせて展示しました。第2期では、森守明、高林和作、伊砂利彦、北村春正らの作品を昨年度の新収蔵品として学内初お披露目しました。第3期では、昨年度に新収蔵した山口華楊の本画2点、画稿5点、素描3点をこちらも学内初お披露目しました。9月からは以下の展示を開催しますので、皆様のお越しをお待ちしております。

第4期 「京の絵手本－写生と運筆」 9月18日(火)～10月21日(日)

明治13年に京都御苑内に開校した京都府画学校は、日本絵画を教育するために生まれました。背景には絵画の有用性に期待するところがありましたが、その教育は鑑賞画を描く画家を育成するものでした。明治期の日本絵画の教育は、運筆、写生、模写を中心に構成され、その中で教員による絵手本が利用されました。これら絵手本を通して明治期の絵画教育を回顧します。



菊池芳文《藤》1909年



土田麦僊《髪》1911年

第5期 「遷る学舎 画学校から芸大まで (御苑・吉田・今熊野・沓掛)」 10月27日(土)～12月2日(日)

本学は2023年、現在の沓掛から京都駅東崇仁地区への移転を予定しています。これまでも140年近い歴史の中、校地はたびたび変わってきました。1880年、京都府画学校として創立した本学は、京都御苑内准后御里御殿を仮校舎として発足しました。そのあと数カ所の仮住まいを経て、1893年京都御苑東南隅に新校舎を得ましたが、その後も1907年に吉田、1926年に今熊野、1980年に現在の沓掛とそれぞれ新校舎を建てて移転を繰り返してきました。本展では、それぞれの校舎について、当時をしのぶ写真や資料、その校舎で作られた卒業作品を展示し、校舎跡地の状況や現存する建物などをパネル等で紹介します。

新任のあいさつ

共通教育・准教授・物理学 磯部 洋明



退職された藤原隆男先生の自然科学研究室を引き継いで4月に着任しました。専門は宇宙物理学で、特に太陽の活動現象の研究をしています。日常世界からかけはなれた宇宙の姿に憧れて科学者になりましたが、やがてそれが人間や社会にとってどのような意味を持つのかに関心が広がり、最近は文化人類学、倫理学、歴史学など人文系の研究者と共同研究したり、落語や茶道などの伝統文化とコラボした科学コミュニケーションや科学と宗教の対話イベントを開催したりもしています。

京都芸大では物理、宇宙物理、数学、情報、現代の科学技術などの授業を担当しています。芸大生に自然科学を教える意義は何か、自分自身が芸大に身を置く自然

科学研究者として何ができるか、そんなことを考えながら試行錯誤の日々です。大学院の授業では前職の京大から大学院生に来てもらって、空気中の微粒子採取実験など実際の自然科学研究を体験したり、自然科学を専門とする院生と交流したりもしています。

先日の授業後、学生さんに「先生が使ってたチョークが私の作品のコンセプトに合いそうなのですがもらっていいですか?」と言われました。物理の専門家ばかりに囲まれた世界ではこんな質問を受けることはもちろんありません(笑)。個性豊かで好奇心の強い学生や教員の皆さんに囲まれてこれからどんなことが起きるのか、楽しみにしています。

日本画研究室 准教授(日本画) 奥村 美佳



この春、学生として教員として24年間過ごした私学の芸大をあとに本学に着任し、早くも数か月が経ちました。母校では本学出身の先生方に日本画を学び、京都の写生を重視する教育を受けて参りましたので、日本画の道を志す者として、京都市立芸術大学は特別な場所であり、憧れを持っていました。それ故、この度の着任に際しては、重い使命感を感じております。

日本最古を誇る芸術系大学ならではの、錚々たる卒業生や先達方の資料が充実し、近現代日本美術の宝庫ともいえる本学では、常に本物が学内で展示されており、その豊かさに嬉しい驚きを禁じ得ません。一方、本学のことを徐々に知るに従い、ここに先進的な表現を受け入れる創造精神が根付いていることに気付かさ

れ、感銘を受けます。着任して僅かではありますが、伝統を大切にしながらも表面的な流行に流されない革新的で自由な校風が肌身で感じられ、本来の大学らしさを実感できる現代では貴重な場であると思います。

静かにじっくりと制作に励み、常に本物の芸術に触れることが出来る本学の理想的な環境はまさに次代の表現者を育むに相応しいものと思います。

あらゆる物事に多様な価値を見出し、具現化することへの情熱を共に育み、各々が自主自立を大切に切磋琢磨して夢を実現してゆけるよう、好奇心と希望を持って学生の皆さんと共に研究や制作内容を深めてまいりたいと思います。

旧今熊野学舎跡と移転先崇仁地域の視察ツアー参加者募集

日 時 2018年(H30)11月4日(日)雨天決行(警報時は中止)

13時にJR京都駅(塩小路通側)中央口の外にある「バス総合案内所」<チケットセンター>前に集合

同窓会象の会では、芸大祭(11月3日～5日)の日程に合わせて旧今熊野学舎跡と移転先である崇仁地域の視察ツアー参加者を募集します。

移転先に予定されている崇仁地域は、JR京都駅の東隣りで、東海道線東山トンネル出口の上にあった旧今熊野学舎とは鴨川を挟んで隣併せという位置関係になります。1980年に洛西の地に移転してから38年余、そして5年後には再移転を控えたこの時期に昔の今熊野学舎を目に焼き付け、崇仁の地に新しい大学のイメージを重ねるのも悪くはないと思います。視察後、希望者は芸大祭の模擬店「象の店」で一献傾け、思い出話を続けようと思っています、是非多くの同窓生の参加を願ってご案内申し上げます。 <代表幹事>

<行 先>

- ①先に旧今熊野学舎跡(智積院南)を視察します。<昔のままの校舎が残っています> 京都駅前から市バス利用。
- ②その後、移転先である崇仁地域を視察します<大学事務局に説明案内をお願いしています> 旧校舎跡から鴨川を渡りゆっくり歩いて約20分、市バス又はタクシーも可。
- ③終われば崇仁で解散ですが、希望者はその後、大学(洛西大枝)へ向かい模擬店「象の店」に合流します。 バスカタクシー利用。

<参加費>

一人1,000円(当日集合地で徴収)

*崇仁で解散する方は500円

*同窓会費(年会費、終身会費)を納めている方は無料

<参加申込>

9月3日(月)から10月26日(金)まで受け付けます。電話(携帯・固定)かFAX、メール(SMSも可)で参加者の氏名、連絡先(電話など)を同窓会事務局まで連絡ください。(出来るだけメールかFAXで連絡ください。)

・催行人数が少ない場合は中止することがあります。

同窓会象の会事務局 電話 FAX: 075-334-2218(固定)
(担当/開本恭子) 携帯: 090-7353-6999(SMSも可)

メール: office@kyogei-ob.jp



今秋の芸大祭「象の店」(同窓会)ご案内

2018年11月3日(土・祝)～5日(月)

今秋も京都市立芸大の「芸大祭」が開催され、同窓会象の会も6年目となる模擬店「象の店」《湯とうふとお酒の店》をオープンします。同窓生と学生・教職員を始め市職員や地域の市民の方々との交流の場、今昔物語の場として好評をいただいております、今年も頑張って開店します。私も都合が付けば出来るだけ店主として店に居る予定です。皆様には是非とも会場へお運びいただきまして「芸大祭」を盛り上げていただきたく存じます。

お届けしました「会報 象」に店の案内とワンドリンク無料券が付いていますので、それを持って西京区大枝の里へ馳せ参じてください。店主ほか副会長など役員一同、皆様をお待ち申し上げます。

2018年8月

美術学部同窓会象の会

会長 上村 淳之

(「象の店」店主)

芸祭テーマ「ぼくらの地球侵略計画」

今年の芸祭のテーマは「ぼくらの地球侵略計画」です。近年、外部からの芸祭の来場者数が増加しているということを踏まえて、「芸術を用いて一般社会に向けてアプローチしていこう」という意味でこのテーマとなりました。今年もゲスト企画やライブ、生徒による作品展示など楽しいイベントが目白押しなので、ぜひ足を運んでください!

芸祭長 福島周平



キトリ線

平成30年度京都市立芸術大学祭 あたたか〜い湯豆腐のお店

美術学部同窓会「象の店」ワンドリンク無料券

京都市立芸術大学構内 中央棟2階 南側出入り口付近

平成30年11月3日(土・祝)～5日(月)

開店時間(予定) 12:00～20:00 (5日は18:00閉店予定)

*本券は美術学部同窓会「象の店」でのみ有効です。芸祭は11:00～開催予定。

*万が一、開店できない場合は事前に同窓会ホームページでお知らせしますのでご確認ください。

美術学部同窓会



事務局だより

●大学移転で同窓会事務局確保の見通し

2013年の大学移転に際し、昨年に上村会長から鷺田学長へ要望した同窓会室の確保について、7月の役員会で大学から確保(音楽学部同窓会と共用)できる見通しとの回答がありました。

同窓会関係者や同窓生を名乗って、個人情報を開き出したり、物を売りつける事例がありますのでご注意ください

同窓会からの案内は、同窓会の所在地(大学内に設置)や電話番号が正しいことを必ず確認して対応ください。不審な点があれば同窓会へ電話ですぐに問い合わせてください。

「同窓生名簿2015」の頒布について

2015年7月発行の「同窓生名簿2015」は、まだ在庫があります。ご希望の方は、代金3,500円(送料込)をご送金ください。折り返し送付いたします。ただし、同窓生一人1冊を原則としていますので既に2015年版名簿を購入された方は購入できません。

振込先:郵便局に備え付けの振替用紙(青色)を使って送金ください。

口座番号:01030-7-12844

加入者名:京都市立芸術大学美術学部同窓会象の会

通信欄:同窓生名簿2015購入と記載の上、氏名、卒業年、専攻、住所(送付先)、電話番号をご記入ください。

●大学移転で同窓生戦没者追悼樹(石碑付)の移植要請

1998年11月に同窓生戦没者追悼会が開催されたとき、追悼樹として「榊」が学内に植樹されています。同窓会は、移転に際してこの追悼樹も移植できるよう大学へ要請しました。

▼次の場合は、事務局までご連絡ください

●同窓会後援名義使用

同窓会会費を納入されている会員が主宰する作品展など(個展、グループ展)で同窓会の後援名義使用を希望される方。

●展覧会の案内、情報をお寄せください

同窓会へ送っていただいた展覧会の案内や情報は、同窓会ホームページや会報に掲載しています。

●満80歳以上の会員で会費免除を希望される方はご連絡ください

過去10年間、同窓会会費を連続して納入いただいていた満80歳以上の会員で希望される方は、年会費を免除できます。

●氏名、住所、電話、FAXなどを変更された時

お忘れになると会報などの情報をお届けできなくなりますので、郵便、FAX、メールなどの方法でご連絡ください。同窓会ホームページの住所変更フォームからも変更できます。

同窓会会費の納入をお願いします

会費の納入状況は同封の払込取扱票に印字されていますので、未納の方は納入くださいますようお願いいたします。

来年2月発行予定の同窓会報 No.68 は経費節減のため会費納入者のみに送付します。

編集後記

●6月の大阪北部地震に始まり、その後の西日本豪雨、更に連日の記録的な猛暑、そして追い打ちをかけるように台風上陸と、立て続けに自然の猛威に翻弄された夏となりました。世界各地でも同様の自然災害が頻発し、地球規模の気候変動に拍車がかかってきていることに危機感がつのります。

同窓生の皆様におかれましてはご無事にお過ごしでしょうか。被災地及びその周辺地域で被害にあわれた方々には謹んでお見舞いを申し上げます。一刻も早い復旧、復興を心よりお祈りしております。

●大学移転については、京都市、設計者、大学が対話を重ね、9月には基本計がまとまるものと思われます。新校舎の設計においては、この度の地震や川に近い立地を考慮した設計が求めら

れます。同窓会も事務局設置に関する要望書をすでに大学に提出しており、これからさらに活性化するであろうその重要な活動拠点の実現に向けて働きかけていきたいと思えます。

●今夏は殊のほか涼しい秋の到来が待たれます。同窓生の皆様にはまた、今年も6年目を迎える芸大祭内「象の店」での楽しいひとときを心待ちにさせていただきまして、厳しい暑さを乗り切っていただきたいと存じます。

●同窓会は、会長である上村淳之先生を中心にますます同窓生、大学、学生の絆を強めるべく、活発な活動をめざしたいと考えております。皆様の積極的なご参加、そして情報、ご要望、忌憚のないご意見をお待ちしております。

(会報編集委員長:阿部 緑)

キトリ線

JR京都駅北側バスターミナルC2のりば

京阪京都交通バス 2・14・28 系統に乗車、芸大前(約45分)下車。徒歩すぐ。

阪急桂駅東口

京阪京都交通バス1・2・13・14・25・28 系統に乗車、芸大前(約20分)下車。徒歩すぐ。

JR桂川駅・阪急洛西口駅

京阪京都交通バス11A系統(京都成章高校前行き)に乗車、芸大前(約15分)下車。徒歩すぐ。

